

あらまちなみしんでん

荒町南新田遺跡

(上越市大字荒町字南新田286-1ほか)

荒町南新田遺跡は青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高17.5～18mを測ります。北陸新幹線の建設に伴い、4月から11,850㎡を対象に発掘調査を行っています。調査は11月まで行う予定です。

現時点で竪穴住居4軒、平地式住居1軒、掘立柱建物25棟、井戸20基等を検出し、その数は今後さらに増加するものと考えられます。遺構の年代については出土遺物などから、竪穴住居及び平地式住居は古墳時代、掘立柱建物及び井戸は中世のものが大部分と推定されます。

遺物は古墳時代の土師器・須恵器や金属製の耳環、ガラス小玉、さらには中世の珠洲焼・青磁や古銭等が出土しています。本遺跡に隣接し、古墳時代から中世にかけて断続的に集落が営まれていたものと推定され、調査の成果を通じてこの地域の歴史が明らかになるものと考えています。(株)ノガミ 金内 元



平地式住居



掘立柱建物



埋文コラム

たぶせやくしどう ごりんとう

田伏薬師堂の五輪塔

山岸遺跡(系魚川市大字田伏字山キシ)の北東の丘陵に「田伏薬師堂」というお堂があり、2基の五輪塔が建っています(写真:もう1基は手前五輪塔にかくれています)。

五輪塔とは、真言密教で世界を構成する地・水・火・風・空の五大元素をそれぞれ方形・球形・三角形・半球形・宝珠形に石でかたどり、順に積み上げた石塔の一種で、供養塔や墓標として造立されたものです。

薬師堂の2基の五輪塔は、ほぼ同じ造りをしています。それぞれ地輪に「アン」、水輪に「バン」、火輪に「ラン」という種子(仏・菩薩を標示する梵字)が大きく薬研彫りされ、地輪は幅に対してわずかに低く、水輪は球体を少し押しつぶした形(中程が最大径)をしています。火輪は屋たるみを緩やかな曲線にして高く、軒口は薄く垂直に仕上げ、中央部分からやや厚みを増し、両端で緩やかに反り上げています。空輪と風輪は一石で造り出し、風化による摩滅が激しいものの、空輪は曲線的な宝珠形を示しています。



これらの形態的な特徴から、薬師堂の五輪塔は南北朝時代に造立されたものと推定され、鎌倉から室町時代にかけての集落遺跡が見つかった山岸遺跡との関連が注目されます。(国際文化財株式会社 鳥越道臣)